

表1

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立池子小学校) 2016.3

○学校教育総合プランの3つの柱

I 子どもたちの学力向上

○学校教育総合プランの項目

1 個に応じた指導の充実

実施計画

①実施計画の重点等

確かな学力の育成を目指し、基礎的基本的な知識・技能の習得と。思考力・判断力・表現力の育成とともに、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。(継続)

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- *基礎学力の向上のため家庭との連携のもと、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を推進する。(継続)
- *支援教育充実のため、教育相談コーディネーターを中心とした組織的な対応と、関係機関との連携を推進する。(継続)

表1

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>①「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実</p>	<p>①学習状況調査などのデータや日々の見取りに基づいて子どもの実態を把握し、授業研究の取り組みを通して指導方法の工夫と改善を図る ②少人数やチームティーチング等、多様な学習形態を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る</p>	<p>①今まで取り組んできた地域教育力を生かした学習支援ボランティア等をより活用し、個を支援する学習環境を整える ②基礎的・基本的な知識・技能がどれだけ子どもたちに定着しているかを検証し、より効果的な学習形態の工夫改善(指導と評価の一体化)を図るとともに、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成にも力を入れる</p>	<p>①他校・他地域の取り組み例等も積極的に学び、再度今までの取り組みの見直しを行い、教員が研究会だけでなく日常にお互いの授業を見合うなど、授業改善の体制づくりを整える。 ②学習形態の工夫により育んだ基礎的・基本的な知識・技能を生かし、これらを活用した思考力・判断力・表現力を深める授業の工夫改善を図る。</p>
	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p>	<p>(評価) ①達成した ②達成した</p>
	<p>成果と課題 ①児童の実態を見ながらブロック間でも情報交換し、研究授業を通して指導方法の改善を図った。今後も学力向上を目指し、学習状況調査などのデータも活用し、学校全体で取り組みたい。 ②多様な学習形態を活用し、学習の定着を図った。</p>	<p>成果と課題 ①今年度は地域の学習素材や教育力の更なる活用に心がけ、各教科や特に生活科・総合的な学習の時間の具体的な場面で個を支援する教育活動ができた。 ②授業力向上に心がけ、個々のニーズに合った指導支援に繋がるケースが増えてきているが、合理的な配慮を踏まえた更なる検証、工夫が必要である。</p>	<p>成果と課題 ①昨年度の反省を踏まえ、様々な研究会へ積極的に参加しながら、校内においては全クラス公開の研究授業の実践を重ねた結果、指導力や職場内の研修意欲の向上につながった。 ②校内組織を見直し、インクルーシブ教育を軸としながら、支援シートを効果的に活用した授業の工夫改善に努めることができた。</p>

表1

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>② 「読解力」向上の取り組みの推進</p>	<p>①学習状況調査などの結果を踏まえ、本校児童の特性を分析し、読解力向上のために各教科や教科外の活動において言語活動の活性化を図る ②すべての教育活動の中で、コミュニケーション能力の育成を意識して取り入れることをめざす</p>	<p>①読解力向上のための言語活動の実践内容を各学年の年間計画にのせ、6年間で子どもたちにとってより効果的な取り組みとなっているか分析・検討を進める ②コミュニケーション能力の育成が効果的に行われているかを振り返る機会を日常的に設け、授業実践の工夫改善を図る</p>	<p>①前年度までの課題等を踏まえ、活発な言語活動を取り入れたよりよい授業実践の工夫改善を図る。 ②学年内の交流、また他学年との交流、さらに保護者・地域との関わりの中での活動・発表場面を設けるなど、より高度なコミュニケーション能力の育成に取り組む。</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった □</p>
	<p>成果と課題 ①学習状況調査などの結果から、本校児童の特色を知り、各学年で言語活動の活性化に努めた。 ②各学年、各学級で行う教育活動の中で意識的に言語活動の場を設け、コミュニケーション能力の育成をめざした。</p>	<p>成果と課題 ①言語活動の実践が6年間で子どもたちにとってより効果的な取り組みとなるよう総合的学習や生活科と関連させながら、カリキュラムに反映させた。 ②授業実践の工夫改善を図り、引き続き、コミュニケーション能力の育成が効果的に行われているかを振り返る機会を日常的に設けた。</p>	<p>成果と課題 ①特に生活科・総合的な学習の時間とも関連付けた学習内容を計画し、ペアや小グループでの対話を意識的に取り入れながら日々の授業改善を行った。 ②コミュニケーション能力の育成を目指し、ペアや小グループでの対話から全体共有へのプロセス等、異なる他者との多様な対話を充実させるための取り組み方を、職員間で共有したり、研修したりする事を、今後も継続して取り組む必要がある。</p>

表1

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>③ 読書活動の推進</p>	<p>①図書室の利用指導を行うと同時に、各教科の中で、図書室を利用した学習を推進する ②蔵書のよりよい充実を図り、学習情報センター及び読書センターとして、学校図書館の機能向上をめざす</p>	<p>①司書教諭、学校図書館指導員、学校支援ボランティアの連携と、効果的な活用を進め、読書活動の充実を図る ②市立図書館との連携を深め、学級文庫の充実に努める。また、蔵書のデータをパソコンに入力し、検索を容易にするため、校内のデータベース化を目指す</p>	<p>①地域との連携を図りながら読み聞かせを行うなど児童の発達段階に応じた読書活動を推進する。 ②市立図書館と連携し、学校図書館の学習情報センター、読書センターとしての機能の充実を図る。</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p>	<p>(評価) ①達成した ②達成した □</p>
	<p>成果と課題 ①各教科の学習における調べ学習で図書館を積極的に利用した。図書室でそろわない資料については、図書館での団体貸し出しや図書館のバックでの貸し出しなどを活用した。 ②絵本、理科や社会、総合的な学習の時間等の調べ学習に活用できる資料まで整理、購入し、図書室の整備、充実に努めた。</p>	<p>成果と課題 ①学習内容に合わせ市立図書館の貸し出しを利用し年間通して活用できたと共に、学級文庫用のリサイクル本を充実させることができた。次年度は、各教室の学級文庫として配置していきたい。 ②蔵書数、購入数、廃棄数などはデータ化できたが、検索を容易にするためのデータベース化にまでは至らなかった。次年度も継続して進めていきたい。</p>	<p>成果と課題 ①地域の方に素話をさせていただくお話を年間を通して実施した。低学年は、図書の時間に図書館指導員が読み聞かせや本の紹介を行った。中、高学年においては、朝の読書の時間を設けたり、社会科や総合的な学習の時間に調べ学習を図書室の資料で行うなどした。 ②学校図書館連携・支援サービスモデル校となり、市立図書館と連携をとり、多くの資料を子どもたちに提供することができた。</p>

表1

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進</p>	<p>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的対応を進める ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を確立させる</p>	<p>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等を開いて支援に向けた具体的対応を進める ②支援教育推進巡回指導員を中心とした支援教室を充実させ、児童理解の研修等を通して、授業力、学級経営力の向上をめざす</p>	<p>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を進め、組織の連携を図るとともに、児童のニーズを適切に把握し、ケース会議・チーム会議等開いて支援に向けた具体的対応を進める。 ②巡回指導員を中心とした支援教室を充実させる。</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した □</p>
	<p>成果と課題 ①年に2回児童指導研修会を実施し、支援や配慮が必要な児童理解ができた。何か問題が起きたときに、早急・適切に対応できた。 ②支援が必要な児童に支援教育推進巡回指導員による支援教室で学習することによって、ソーシャルスキルが高まった。教材も増え、活用できた。</p>	<p>成果と課題 ①年2回の他に毎月児童の情報共有を全職員でした。今年度は児童相談所、県スクールソーシャルワーカー、子育て支援課、教育相談所相談員等に参加していただき、ケース会議を複数回行えたことで支援が適切かつ充実したものになった。 ②支援教育推進巡回指導員に具体的なソーシャルスキルに関する研修をしていただき、役立てることができた。</p>	<p>成果と課題 ①学年・ブロック会、月1回の校内支援委員会、職員会議後の児童理解等で、個別に支援が必要な児童について全体で情報共有を図り、ケース会や支援会議で、具体的な支援計画を立てた。CDが中心となり、一斉授業の中での個別支援や、休み時間や放課後の個別学習、家庭学習のサポートを保護者と連携し行い、個に応じた指導が充実された。 ②巡回チームによる学級観察のフィードバックにより、CDを中心に1次支援の向上に努め、児童の学習意欲を高めることができた。</p>

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立池子小学校) 2016.3

○学校教育総合プランの3つの柱

I 子どもたちの学力向上

○学校教育総合プランの項目

2 健やかな心と身体の育成

実施計画

①実施計画の重点等

- ・家庭、地域との連携のもと、基本的な生活習慣の確立と健康・安全に対する意識の向上を目指す。(継続)
- ・小規模校の特性を生かしたきめ細やかな支援と、地域性を生かした体験活動等を通して豊かな心を育む。(継続)

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- *家庭・地域との連携のもと、元気なあいさつや時間を守る等の具体的な行動を通して基本的な生活習慣の育成を図る。(継続)
- *学校での様々な活動を通して児童の人間関係を深め、豊かな心の育成を図る。(継続)

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 基本的な生活習慣の育成	①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活を心がけることで基本的な生活習慣の育成をめざす ②保護者・地域・関係諸機関と連携し、情報交換や協同事業を通して家庭教育力・地域教育力の向上を図る	①学校からの「たより」や参観・懇談など、様々な機会を通して保護者・地域・関係諸機関などへ積極的に情報発信をしていくことで、さらなる連携を図る ②児童を取り巻く環境の変化に応じた健全育成を図るため、保護者や地域を対象にした講演会(研修会)を積極的に開催し、子どもを見守り、育てるための考える場を設定する	①前年度までの子どもの基本的な生活習慣の定着について実態調査をし、さらなる取り組みの工夫改善を図る。 ②保護者・地域・関係諸機関と協力し、講演会・懇談会等を計画し、より密接な連携・協力体制と丁寧な情報交換を図る。
	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①正門前での朝の交通指導で、校長があいさつ運動を推進することにより、学校全体のあいさつ運動も活性化したと考える。 ②学校支援地域本部事業など、保護者・地域・関係諸機関との連携も密に行い、特に地域教育力を十分に活かすことができた。	成果と課題 ①学校便り、学年便り等、定期的に発行され、学校からの積極的な発信に繋がった。HPは年度末に新たな形での更新ができたが、全職員での研修が必要である。 ②子どもたちの規範意識の高さは、学校、地域、保護者の連携の結果である。また、委員会やたて割り活動を通じた学校をあげての取り組みの効果が出ている。	成果と課題 ①子どもの実態を踏まえ、健康について、学校からの積極的な発信を重ね、家庭と学校が一体となって生活習慣の工夫・改善に努めることができた。 ②今年度も保護者・地域・学校が一体となって様々な取り組みを行い、地域の中の学校としての存在を示すことができた。 また、子どもの健やかな成長を目指した活動に対してPTA・地域からは全面的な協力を受け、充溢した活動ができた。その成果は子どもの姿に反映されている。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①道徳の授業を要として、様々な学習活動の中にも道徳的な内容を積極的に取り入れることで、道徳教育の充実を図る ②各種体験活動の充実を図り、その活動を通じた心に響く道徳教育を実践する	①人を思いやる心、命を大切にする心を重点に、児童一人ひとりの心に響く教育を学校・家庭・地域と連携を密にしながら推進する ②学校支援地域本部と連携し、地域の人材や特性を生かした道徳教育の実践に取り組む	①道徳教育の全体計画を見直し、道徳授業以外との密接な連携をとりつつ、日常的な学習の中で計画的・発展的な指導に取り組む。 ②6年間の全体計画を見直し、保護者・地域との連携の元に、児童一人ひとりの豊かな心を育むための道徳教育を推進する。
(評価)	① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
成果と課題	①各教科と道徳との関連が示されるように担任が働きかけ、道徳の授業だけでなく、様々な学習の場面の中で、道徳的価値を見なおすように努めた。 ②様々な体験の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。	成果と課題 ①学校教育の要である道徳教育は、普段の生活の中で活かされなければならない。本校では生きた題材を元に子どもたちの心に響く授業を意識し公開することができた。 ②出生地学習は自尊感情の向上に繋がることを意識した心をはぐくむ授業の実践を行うことができた。	成果と課題 ①普段の生活の隅々まで道徳教育を意識した活動(学級・委員会・縦割り活動・学校行事全て)の実践を行った。規範意識や自己肯定感の高さはその成果と考える。 ②6年間の全体計画をしっかりと構築し、出生地学習(地域学習)を意識した取り組みにより、保護者・地域からの評価が高まった。地域から愛される学校・児童として、豊かな心を育む尊く道徳教育の推進も着実に進行している。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 豊かな体験活動の 推進	①地域の特性を生かした体験活動(自然体験、福祉体験、勤労体験、遊び体験等)を通して、社会性や協調性を育成する ②社会見学・校外学習・宿泊行事・異学年との交流行事などを通して、集団生活のマナーや責任感を育むとともに、思いやりや信頼関係を育成する	①学校に講師を招いての体験活動だけでなく、子どもたちが積極的に地域へ出て行って取り組めるような活動を増やすことで、より効果的な学習活動を目指す ②各種体験活動等を通して、体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいくような活動を計画し推進する	①6年間を通した地域の特性を生かした学習計画を作成し、それらが子どもたちの社会性や協調性の育成にどれだけ役立っているかの検証を行い、よりよい計画づくりに生かす。 ②各種体験活動を実施するにあたり、学校・保護者・地域が密接に連携し、子どもたちにとって豊かな体験となるよう、計画的で効果的な活動を推進する。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①地域の教育力を活用し、社会性や協調性を育成することができた。 ②ふれあい遠足・ふれあい集会・たてわり活動などを通して異学年が交流しお互いに思いやり、信頼関係を育成することができた。	成果と課題 ①子どもたちが地域に出て行く活動については、昨年度までのものに加え、今年度新たに企画したものも多く実施することができた。次年度は、特に地域の高齢の方とふれあえるような体験活動を工夫していきたい。 ②総合的な学習の時間など、体験を通してさらに学習を深めていけるような活動に取り組むことができた。	成果と課題 ①ねらいと子どもたちに付けさせたい力を明確にしながらか教育課程に位置づけ、地域の特性も活かしながらズシップの方々との交流などの体験活動を実施することができた。 ②総合的な学習、生活科など、地域支援コーディネーターを介して、保護者や地域の方の協力を得て、発展的な学習につながる体験活動を実施することができた。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
④ 食育の体系化と 体力づくり・健康教育 の推進	①食育に関する全体計画に基づき、食教育を計画的に推進する ②健康教育について、児童の体力や健康状態を把握し、教職員間で共通理解を図るとともに、家庭や関係行政機関等との連携しながら計画的に推進していく	①各学年の食育に関する取り組みを体系化し、食育指導、体力づくり、心身の成長発達について正しく理解させるための実践を推進する ②健康教育を推進する中で、家庭と連携し生涯を通じて健康・安全な生活を送れるための基礎が養われるよう継続的に推進していく	①各学年の食育に関する取り組みを、継続的に推進し、家庭との連携を深め推進していく。 ②健康教育を推進する中で、家庭と連携し生涯を通じて健康・安全な生活を送れるための基礎が養われるよう継続的に推進していく。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した <input type="checkbox"/>
	成果と課題 ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士による食育の授業や、給食指導を計画的に行うことができた。今後も各学年と連携をとり継続して実施していく。 ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じて実践することができた。今後も教職員間の共通理解をはかりながら実践を継続していく。	成果と課題 ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士、養護教諭とも連携をとりながら、各学年が教科との関連を持たせながら進めていくことができた。今後も、食育の視点を持ち進めていく。 ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じ実践することができた。家庭との連携は、おたよりやホームページを通じての発信を行った。今後、より相互通行の連携がとれるよう工夫していきたい。	成果と課題 ①食育に関する全体計画に基づき、栄養士、養護教諭とも連携をとりながら、各学年が教科や季節の行事等との関連を持たせながら進めていくことができた。今後も、引続き食育の視点を持ち進めていく。 ②児童の発達段階に応じた健康教育を様々な場面を通じ実践することができた。家庭との連携は、おたよりや試食会での説明などを通じて発信を行った。今後も引続き、より相互通行の連携がとれるよう工夫していきたい。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立池子小学校) 2016.3

○学校教育総合プランの3つの柱

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

○学校教育総合プランの項目

1 多様な教育的課題への対応

実施計画

①実施計画の重点等

・様々な教育課題に対し保護者・地域・関係機関との連携の中で迅速な対応を目指し、同時に子どもたちが安心・安全に過ごせる環境整備を推進する。(継続)

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

*防災や交通安全等に対し、保護者・地域と連携を推進する中で、子どもたちの安心安全の確保に努める。(継続)
*いじめや不登校、福祉・環境教育等の教育課題に対し、関係諸機関と連携をとりながら推進していく。(継続)

行動プラン

① 学校安全の推進	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
	①児童自らの危機予測・危機回避能力の育成を目指し、安全教育を計画的に実施し、日々の教育活動の中で意図的に取り組む ②交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室実施し、地域と連携し、児童の安全に対する意識の向上を図る	①児童が様々な体験を通して、危機予測・危機回避能力を養えるように、実地訓練を計画・実施していく ②地域との連携を通して児童の実態を踏まえた交通安全教室・誘拐防止教室・自転車教室・安心安全教室を実施し、安全に対する意識の向上を図る。また、より良い環境を整備していく	①児童が様々な体験を通して、危機予測・危機回避能力を養えるように、実地訓練を計画・実施していく。 ②様々な災害を想定し、安全確保のための環境整備をさらにすすめる。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した <input type="checkbox"/>
	成果と課題 ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や道徳活動の中で危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。さらに、様々な場面を想定した避難訓練を実施し、実際の行動に結びつけるようにしていきたい。 ②警察等の外部機関と連携し、安全教室等を開催した。また、教職員の研修も行い安全に関する意識を向上することができた。今後も継続して実施していきたい。	成果と課題 ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や5年生における総合学習、シェイクアウト訓練等、様々な場面を設定し危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。今後も計画的に行っていく。 ②警察・消防等の外部機関や地域ボランティアと連携し、訓練や安全教室、総合的な学習の時間の授業等を行うことができた。教職員研修も安全防災に関する意識向上につながる事ができた。今後も継続していく。	成果と課題 ①防災・安全指導年間計画に基づき、避難訓練や5年生における総合学習、シェイクアウト訓練、低学年への新たな安全教室等、様々な場面を設定し危機予測・危機回避能力を培う指導を行ってきた。今後も教科の学習等と関連させながら計画的に行っていく。 ②警察・消防等の外部機関や地域ボランティアと連携し、訓練や安全教室、総合的な学習の時間の授業等を行うことができた。教職員研修も安全防災に関する意識向上につながる事ができた。今後も継続していく。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 問題行動等への対応 の推進	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながら組織的対応を図る ②個人情報の保護に配慮しつつ、幼稚園・保育園や中学校との連携を深め、支援に役立てる	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・支援教育推進巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながらより充実した組織的対応を図る ②教育研究所・子育て支援課等の専門機関との連携を密にし、子ども一人一人の課題に応じた支援を積極的に行う	①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立し、スクールカウンセラー・巡回指導員・うるおいフレンド等を活用しながらより充実した組織的対応を図る。 ②教育研究所・子育て支援課等の専門機関との連携をより密にし、子ども一人一人の課題に応じた支援を積極的に行う
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した <input type="checkbox"/>
	成果と課題 ①スクールカウンセラーや巡回指導員、うるおいフレンド、外部機関等と連携し早急・適切に対応ができた。 ②幼稚園や保育園との連携を深め、入学予定の支援体制の充実に努めた。また、中学校とも連携を強化し、入学後の支援に役立つようにした。	成果と課題 ①支援や配慮が必要な児童には、スクールカウンセラーや支援教育推進巡回指導員にアドバイスをいただきながら、早急・適切に対応ができた。毎年心のアンケートを実施し、即対応ができています。 ②外部機関と連携を密にし、各児童に合った支援ができた。	成果と課題 ①支援や配慮が必要な児童には、巡回チームにアドバイスをいただきながら、早急・適切に対応ができた。心のアンケートについての内容を見直しを行った。年2回実施し、児童の実態に合わせて対応ができた。 ②外部機関との連携、地域・保護者と連絡を密にし、各児童の個別の支援を行うことができた。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①幼稚園・保育園と相互の参観等をさらに推進し、課題を共有しつつ個々の役割の明確化を検討する ②9年間を見通したカリキュラム上の連携や児童指導の情報交換を推進する	①個人情報の取扱いに、より一層配慮しつつ、幼・保・小・中の連携を進め、学校生活の安心・安全の向上を図る ②小・中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消を目指す	①幼・保連携では、行事での交流のみならず、児童に対する共通理解、情報の共有も図る。 ②小・中連携でも行事や授業だけでなく、児童指導、生徒指導でも理解と連携を推進する。
(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した <input type="checkbox"/>
成果と課題 ①幼・保・小担当者会において、情報交換や公開行事参観などを通して、教育内容等の相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続的な連携をはかりたい。 ②中学校の学校訪問や出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けて、支援体制の充実に努めた。今後も、継続的な連携をはかっていく。	成果と課題 ①幼・保・小連携推進連絡調整会議において、情報交換や公開行事参観などを通して、相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していきたい。 ②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり、中学校入学に向けての児童の授業参観や部活見学、生徒会活動説明会など、学校間の交流が深まった。今後も、継続的な連携をはかっていく。	成果と課題 ①幼・保・小連携推進連絡調整会議において、情報交換や公開行事参観などを通して、相互理解と幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していきたい。 ②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり中学校入学に向けての児童の授業参観や部活動見学、生徒会活動についての説明会など学校間での交流は深まっている。今後も継続的な連携と新たな連携方法を考えていく。	成果と課題 ①幼・保・小担当者会において、児童の情報交換を積極的に行うことで相互理解を図れた。また、公開行事参観などを通して幼児・児童間の交流を推進することができた。今後も継続していきたい。 ②中学校との外国語活動や体育科の出前授業など連携をはかり中学校入学に向けての児童の授業参観や部活動見学、生徒会活動についての説明会など学校間での交流は深まっている。今後も継続的な連携と新たな連携方法を考えていく。

行動プラン	H25(2013)年度予定内容	H26(2014)年度予定内容	H27(2015)年度予定内容
④ 国際教育の推進	①多様な文化に触れる内容の学習活動を各学年の発達段階に応じて取り入れる ②IEA(国際教育指導助手)の効果的な活用をはかり、諸外国の文化や歴史・自然などに関心を高めるような取り組みをする	①外国語活動や国際理解の授業を通して、異文化活動についてふれ、多様性を尊重し受け入れていく態度を育てる ②各学年の外国語活動、国際理解の授業に、異文化理解、多様性の尊重を意図した学習を取り入れる	①外国語活動や国際理解の授業を通して、異文化理解、自分から他者と関わるコミュニケーション力の育成を推進する。 ②池子小学校の国際教育のあり方をまとめ、6年間を通した学びを教育課程上に位置づける。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、全学年が国際教育に取り組んだ。 ②IEA(国際教育指導助手)と事前に話し合い、IEA(国際教育指導助手)の出身国の話から、様々な国の文化や特徴について取り上げ、授業づくりをした。	成果と課題 ①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、国際教育にて異文化を知ることに取り組んだ。 ②児童がより興味をもつ内容をIEA(国際教育指導助手)と考え、授業作りをした。様々な地域や国の文化にふれ、授業を展開した。	成果と課題 ①それぞれの学年の発達段階に応じて、IEA(国際教育指導助手)との協力の下、国際教育にて異文化を知ることに取り組んだ。また、何を言わんとしているのか理解しようと努める子どもたちの姿も育ってきた。 ②校内職員研修を実施し、外国語活動への考え方や授業づくりについて学ぶ機会を設けた。また、年間計画を作成し、より発展的に学習が展開できるようにした。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑤ キャリア教育の推進	①子どもの発達段階に応じて、自己の生き方について考える学習を体験活動を通して取り入れる ②保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習を充実させる	①キャリア教育に対する教職員の共通理解を図り、子どもの発達に応じた様々な「生き方の教育」について検討し、その取り組みを実践する ②調べ学習や体験学習のねらいを再確認し地域教育力の効果的な活用を図る	①教育活動全体をキャリア教育からの視点で見直し、カリキュラムとして残しているようにする。 ②地域教育力のさらなる活用を図り、キャリア教育の充実を図る。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①4年生での2分の1成人式 6年生のラーメン作り・八景島シーパラダイス飼育員体験・市長との話をとおして自己の生き方や今後の職業選択について考えることができた。 ②保護者や地域のお店(畳店 豆腐店)の協力を得て調べ学習や体験学習が充実した。	成果と課題 ①総合的な学習の年間カリキュラムを作る中、4年生6年生でキャリア教育を位置づけ教職員の共通理解を図った。 ②地域や保護者の方を効果的に活用した体験的な学習を引き続き行った。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の年間カリキュラムではなく4年生6年生の特別活動の中にキャリア教育を位置づけ教職員の共通理解を図った。 ②地域支援本部事業などで地域や保護者の方を効果的に活用し キャリア教育の充実を図ることができた。

行動プラン

⑥ 福祉教育の推進	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
	①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する ②NPO等の外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する	①各学年の福祉体験活動を整理し、発達段階に応じた学校全体としての福祉教育の推進を図る ②日常的な福祉教育・人権教育を推進し、人権感覚の向上に意図的に取り組む	①体験からの学びを重視し、体験だけに終わらない日常に生きる福祉教育の推進を目指す。 ②人権に対する研修を継続し、人権意識の向上を図ると共に地域・保護者への発信も充実させる。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①市の社会福祉協議会と連携する活動はなかったが学年ごとに体験的な福祉教育を実施した。 ②学年の発達段階に応じた様々な活動をおして地域教育力を生かして日常に生きる福祉を学ぶ機会を増やした。	成果と課題 ①市の福祉協議会と連携し、発達段階に応じた体験的な福祉教育を積極的に取り組むことができた。 ②各教科や、ユニセフ募金などの活動を通して、自分たちにできることを考えたり、他者を尊重する態度を培うことができた。	成果と課題 ①市の福祉協議会と連携し、発達段階に応じた体験的な福祉教育を積極的に取り組むことができた。体験だけで終わらず、ユニバーサルデザインについての学習へつなげることができた。 ②教職員の人権意識を高める研修を実施し、また、ユニセフ募金、東日本特別募金などの児童会活動を通して、自分や他者を尊重する態度を培うことができた。

行動プラン	H25(2013)年度実施内容	H26(2014)年度予定内容	H27(2015)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	①環境教育の全体計画を作成し、各学年での取り組みを整理し、積極的に活動を行う ②環境教育担当者会での情報交換や、関係諸機関との連携を進め、日常的な活動として環境教育に取り組む	①各学年の全体計画を見直し、取り組む行動事項と目標を明確に示し、環境教育を積極的に推進する ②保護者・地域、さらに関係諸機関との連携を深め、子どもたちの環境への意識を育む	①6年間を通した、地域の特性を生かした環境教育全体計画を作成し、よりよい環境教育の推進を目指す。 ②環境に対する意識を深めさせ、子どもたち自らが積極的に活動を展開できるような取り組みを目指す。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①全体計画に基づき、各学年や委員会・全校で活動を行った。 ②関係機関と連携し学習を行ったり、全校行事などで日常的に環境教育に取り組んだ。	成果と課題 ①総合的な学習の時間の年間カリキュラムともからめながら、各学年の全体計画を見直し、取り組む行動目標や内容について、共通理解をはかり、次年度以降も進めていくことを確認した。 ②関係機関と連携した学習活動を引き続き行った。	成果と課題 ①発達段階に合わせ、各教科と総合と関連付けた環境教育を地域の方と協力しながら学校全体で取り組むことができた。 ②逗子市の有料ゴミ袋の標語デザインコンクールに応募、逗子市環境フェスティバルに環境学習の作品を出展するなど、児童が積極的に環境教育に取り組んだ。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑧ 情報教育の推進	①教員が積極的にICTを活用した授業に取り組むことにより、発達段階に応じた情報リテラシーの育成に取り組む ②情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る	①ICT(情報通信技術)を活用した「授業の充実」と「分かる授業」の実現を積極的に図る ②情報活用能力の伸長を通して、判断力・表現力を養う	①情報活用能力の発達段階に応じた指導のあり方を検討し、学校全体で取り組む。 ②学習の様々な場面でICTの効果的な活用がなされるように意図的に取り組む。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した <input type="checkbox"/>
	成果と課題 ①情報教育の推進と、教職員の共通理解を図るため、来年度の「情報教育年間指導計画」の作成を行った。 ②今後はできあがったものを基に単元研究に取り組んでいきたい。	成果と課題 ①情報教育年間指導計画のもとに単元研究に取り組み、学年に応じて実践した。 ②ICT(情報通信技術)を活用し、児童の意欲や関心を高めることができた。今後も、機器の活用を工夫しながら取り組みたい	成果と課題 ①情報教育年間計画のもとに、発達段階に応じた指導の充実に取り組んだ。 ②ICTの効果的な活用、学校放送などを利用し児童の意欲や関心を高めるよう子どもたちに分かりやすい授業づくりに取り組んだ。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立池子小学校) 2016.3

○学校教育総合プランの3つの柱

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

○学校教育総合プランの項目

2 地域に開かれた学校づくり

実施計画

①実施計画の重点等

・保護者、地域それぞれに必要な情報を適切に発信することで、学校との相互の信頼と支援を高め、学校教育を実施することで学校改善を推進する。(継続)

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- * 情報発信を適切に行い、学校評価を実施することで学校改善を推進する。(継続)
- * 保護者、地域の願いをより正確に把握し、地域に根ざした学校運営を推進する。(継続)

行動プラン

①
地域への情報発信と
学校公開の工夫

H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の改善を図る ②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善	①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の実施 ②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善	①学校、学年、学級便り等による保護者、地域への適正な情報発信の実施。 ②学校支援地域本部事業の継続性の確保と改善。
(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
成果と課題 ①学校からの情報は、各学級・学年・学校・分掌からのたよりを通して発信することができた。学校だよりは、発行日にほぼ地域へも配付することができた。 ②学校支援地域本事業は、様々な活動が活発に実施された。しかし、学校が主導で動いているので、今後は、地域コーディネーターなどと密に連携し、地域コーディネーターが主体的に動ける場も増やしていきたい。	成果と課題 ①今年度も、学校からの情報発信として、各学級・学年・学校・係からのたよりを通して、保護者・地域に発信することができた。また、年度の後半には、学校ホームページを随時更新し、学校の様子をタイムリーに伝えることができた。 ②地域コーディネーターと連携し、学校支援地域本部事業を適切かつ活発に実施することができた。	成果と課題 ①学校・学級・学年だよりなどを通して、保護者や地域に定期的に情報を発信することができた。学校ホームページについても、随時更新しながら、学校の様子を発信することができた。 ②地域支援コーディネーターと連携し、前年度踏襲ではなく、今年度の児童の様子や学習内容の見通しを持って学校支援地域本部事業の活動を行うことができた。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 地域教育力の活用	①地域コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善 ②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の検討	①地域支援コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善 ②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の推進	①地域支援コーディネーターを中心とした地域支援活動の調整と改善。 ②地域ボランティアの活動の充実と、学校との双方向の交流の継続。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ②達成した
	成果と課題 ①地域コーディネーターを中心に、ふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、展示を積極的に協力していただいた。 ②学校の環境整備を中心に活動していただき、結果として、よりよい意義深い活動が展開された。	成果と課題 ①地域支援CDを中心に、学校行事や各教科活動での支援やふれあい作品展の出展を呼びかけていただき、多くの作品の出展協力を得ることができた。 ②学校評議員会で今年度の活動の協力を通年で呼びかけ、環境整備など協力していただいたことをその都度報告した。	成果と課題 ①地域支援CDを中心に、学校地域行事や学校行事活動での支援や教育課程に沿った地域教育力の協力をいただいた。 ②通年で地域の力を取り入れるべく、地域の教育力を活用した様々な教育活動を行うことができた。その活動は、各教科や特に生活科、総合的な学習の時間の具体的な場面で活かされ子どもの生きる力に繋がっている。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	①重点化した目標設定と、学校評価アンケートの実施場面と内容の検討 ②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し	①改善された学校評価アンケートの実施方法の工夫と分析 ②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し	①改善された学校評価アンケートの実施方法の工夫と分析。 ②学校評価アンケートを生かした教育活動の点検と見直し。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 児童・保護者・地域による学校評価の他、学校関係者評価委員会での助言をもとに、教育活動の点検と見直しを図ることができた。今後は、児童・保護者による授業評価など、様々な評価方法を検討し工夫改善に努めたい。	成果と課題 ①学校評価アンケートの改善と実施方法の工夫を心がけ、沢山の方々からのアンケートをいただくことができた。今後は実施時期(季節)の検討が必要である。 ②学校関係者評価委員会の指導・助言をいただきながら、全職員で共有し、教育活動に専念することができた。それがアンケート結果に繋がっている。	成果と課題 ①学校評価アンケートについては、毎年見直しを行い実施、分析している。ほぼ肯定的な意見をいただいているが、新たな教育的課題に向けて、今後も検討していく必要がある。 ②学校評価、学校関係者評価委員会の指導、助言を受けて、教育活動に専念することができた。今後も外部の声に対して謙虚に耳を傾けながら教育活動を推進していきたい。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立池子小学校) 2016.3

○学校教育総合プランの3つの柱

Ⅲ 教員の指導力向上

○学校教育総合プランの項目

1 教員研修・研究の充実

実施計画

①実施計画の重点等

教員研修の充実とともに、校内研究では授業研究に継続的に取り組み、指導力の向上をめざす。(継続)

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- *様々な研修会に積極的に参加し、個々の教員の指導力の向上をめざす。(継続)
- *授業公開を積極的に行い、外部講師を招いて指導を受けることで授業研究を深め、授業力の向上を目指す。(継続)

行動プラン

① 授業研究の充実	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
	①中学校との連携による授業実践と6年間の指導体系の見直しを図る ②学校全体としての指導力向上に向けた取り組みの成果を検証し、改善を図る	①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にする ②校内研究を通じて、個々の教員が指導力を高め、授業の改善を進めていく。学校全体で目標が達成できるように意識を高める	①授業研究を通して研究の推進を図り、授業改善にさらに取り組んでいく。 ②学校全体としての指導力向上・授業改善の取り組みの成果を検証し、成果と課題を明らかにする。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した <input type="checkbox"/>
	成果と課題 ①学年ブロックごとにめざす子どもの姿や達成のための手立てを設定してブロックごとの事前研究を行い、縦のつながりを重視した校内研究をすすめた。 ②外部の講師を招いて校内研究の内容に具体的な指導を受け、指導力の向上を図ることができた。	成果と課題 ①研究テーマに基づいて、6年間で育てたい児童の姿を明確にし、その姿を実現するために総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しを行った。 ②個々の教員が授業改善に向けて、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムの見直しに取り組み、今後に向けて共通理解を行った。	成果と課題 ①生活・総合の校内研究では、各教科との関連と子どもたちの見取りから授業改善に取り組んだ。 ②担任が一回以上の研究授業を行い、指導力の向上に努めた。そして、授業実践をもとに、次年度の年間計画見直し、改善案を示し、全職員で共有した。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 授業評価の活用	①授業評価に対する、教員の共通理解を深め、授業の改善に努める ②校内研究の中で、授業の評価を教員同士で行い、研究に全員で取り組む意識を高める	①授業評価のあり方や活用の仕方について、検討していく ②授業の改善につながるような評価のあり方を引き続き検討していく	①学校の教育力の向上につながるような評価のあり方を検討していく。 ②指導と評価の一体化に基づくカリキュラムの改善を検討していく。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成できた ②達成できた <input type="checkbox"/>
	成果と課題 ①学校関係者評価委員に校内研究の講師を兼ねていただくことにより、校内研究による授業改善をさらに進めることができた。 ②校内研究に取り組む意識が以前に増して高くなり、ブロックでの話し合いを活発に行うことができた。	成果と課題 ①②実際に児童や保護者などによる授業評価の実施までにはいたらなかったが、より有効な授業評価のあり方について検討することができた。次年度は確実に実施できるよう、さらに検討を重ねていきたい。	成果と課題 ①講師(巡回SCも含む)の指導の下、全クラス授業公開を重ね、教師間+講師の評価を授業力向上に結びつけることができた。 ②今年度は特に生活科・総合的な学習の時間におけるカリキュラムの改善と充実に心がけ、昨年度作成した年間指導計画を活用し、効果的な授業実践ができた。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 研修事業の充実	①学校内のOJTを機能させ、自主的で活発な教員研修が行われるよう、時間の確保を図る ②授業づくりに直接つながるよう、研究研修部を中心に計画的に研究・研修を実施する	①学校内のOJTが日常的に機能するように、教職員がお互いに声をかけあいながら取り組む ②研究研修計画をもとに、実践指導力向上のための効果的な研究・研修に取り組む	①学校内のOJTが日常的に有効に機能しているかを検証し、さらなる工夫改善した取り組みを推進する。 ②研究・研修が教職員一人ひとりの専門性を高めるとともに学校の組織力を高め、質の高い授業実践ができているか検証し、今後の改善に生かす。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。 ②他校の授業参観や発表会に参加することを通して、校内研究で課題となることや参考にしたいことを明確にできた。また、研修会を設定し学力向上に向けてこれからの課題を明確にできた。	成果と課題 ①経験の浅い教職員に対しては、日常的に学校全体で指導・支援していくよう声を掛け合っている。 ②校内研究で、総合的な学習の時間と生活科のカリキュラムを見直す際には、講師による研修も取り入れながら取り組んだ。また、児童指導・保健安全に関するさまざまなニーズに対応できるような研修を年間を通して行った。	成果と課題 ①初任者に対しては、学校全体で指導・支援していく体制が作られている。授業力向上研修や教育指導教員の方にも初任者の指導をしていただくなど体制の充実を図った。 ②計画的に校内の研修会を設定することにより、教職員の指導力の向上を図ることができた。校内研究では一人ひとりが授業を行うことにより実践的な力をつけることができた。